

余暇支援委員会 希望に沿った提供と地域との連携



すずらんの会では、余暇支援委員会が主体となり各種のサークル活動を企画し、土曜日の余暇を支援しています。この余暇活動は、法人の日中事業所を利用されている方および、利用した後に就労された方等を対象に、希望により参加することができます。

現在はボウリングやカラオケなど10種類のサークルが稼働し、毎月200名を超える方々が参加しています。

サービスの質の向上にむけて、昨年度から活動内容や活動費の見直し等を検討するために、余暇支援委員による各サークルの巡回を始めました。これまでの課題として改善してきた部分の検証や、開催後に挙がった課題の整理、対応の経過を次回に引き継ぐなど、丁寧な運営に重点を置いて活動しています。単発的な巡回でなく、できるとき各開催時に余暇支援委員が同伴することを目標としています。実際に委員自身が余暇活動の様子を見ることで、具体的な検討がし易くなったとの意見があります。

余暇活動は地域社会との関わりのひとつともなり、いくつかのサークルは地域社会の資源を利用して活動していますが、ボウリングサークルでは会計時に店舗が混雑してしまうことがあり、緩和のため、参加者の集合時間をずらすなど店舗側と参加者がお互いに気持ちよく活動できるような改善も重ねてきました。同伴する委員が定期的に店舗側にお話をうかがう機会も設け、より良い関係づくりを意識しています。

参加する方々にとっても余暇は地域と深く関わるひとつになり、対人マナーや公共の場での適切な過ごし方、さらには、日常生活のTPOや健康管理などが習慣づくように伝えていく場でもあると考えています。

カラオケサークルでは、ドリンクバーで過剰な摂取を控えるように促したり、周りに配慮して会話の声の大きさを調整するための声かけを行っています。このように、公共の場でのマナーを守った過ごし方も併せて伝えていくことは地域との関わりを円滑にするために大切と考えています。

また、講師の方々や、活動に同伴していただける地域ボランティアの方々にも無理なく楽しく感じてもらえるような工夫も欠かせません。そのため、年に一回ボランティアの方々や職員が一堂に会する交流会を開催し、それぞれのサークルの様子を知る機会を設けています。講師の方々のなかには、自主的にご自分の担当していないサークルに参加し、参加者の様子などを知らうとして下さる方もいます。

法人の歴史とともに余暇活動の参加者も増加しつつあり、サークルによってはスムーズな活動の提供が難しい部分もあります。しかし、今後も検討を重ね、それぞれの課題への対応が定着するまでの経過を丁寧にみながら、より多くの参加者に楽しんでいただきたいと思います。

(編集：広報委員会)

編集後記

今号の編集を終えて、健全に働いていくためには働くことに向けての知識や実際に働くスキルとともに、プライベートをいかに充実したものにしたいかの視点も大事であることを感じました。

バランスのとれた生活がご本人のスタイルとして定着するように、幅広く見守って行きたいと思っています。

次号も法人のさまざまな取り組みについてご紹介したいと思います。(広報委員会)

ご厚意に感謝申し上げます。

(寄付) 小林 雅昭 様

掲載させていただいた方々の他にも、年間を通して多くの方からご支援を頂戴しております。(地域活動への招待、授産作業のご紹介、設備品・玩具・本の寄贈など)福祉事業に対する温かいご理解を賜り、ご厚意に深く感謝申し上げます。

年頭のご挨拶

理事長 松屋 直人



明けましておめでとうございます。

平成2年に法人がスタートし、平成生まれの方に利用してもらえ時代になったんだと感慨深く感じたのがつい最近の様な気がしますが、その平成も今年が最後となってしまいました。5月からの新しい年号と共に、新たな挑戦をし、より良い法人に成長して行けるよう、職員一同努力して参る所存です。本年もさらなるご支援とご鞭撻の程、宜しく願い申し上げます。さて、一昨年に改正された社会福祉法に従った法人運営を行ってきたところですが、昨年10月に法改正後最初の相模原市による指導監査が実施され、一部改善すべき点について指摘を受けたものの、概ね適切な運営ができてきたと安堵したところです。また、永年自主事業で行ってきた職場定着支援が、利用期限が最大3年間という制限付きではありますが、「就労定着支援」として昨年4月から制度化され、

10月から3事業所でその運営を開始しました。今後も新設された就労定着支援と自主事業の職場定着支援とを活用して、より多くの方が、より安定して、より長期に就労継続できるよう支援していきたいと考えています。

昨年4月に大幅な報酬改定があり、就労系事業では、結果が求められる報酬体系となりました。年ごとに事業所も増加し、利用される方の選択肢が広がっている反面、事業者としては選択される努力なしには運営が継続できなくなる時代が迫ってきているとの実感を強くしているところです。より良い結果で、より良い報酬を得て、より良いサービスの提供を実現し、選択される事業者になれるよう努力していきたいと思っております。

最後になりましたが、本年も皆様のご健勝とご多幸を、心よりお祈り申し上げます。



特集：きめ細やかな サービスを提供するために

すずらんの会の就労系サービスでは「施設内作業・施設外就労・定着支援」のステップで働くことを支援します。多様な環境で経験を積むことができる事業所の取り組みと、企業のご協力についてご紹介します。

すずらんの会7か所の就労系事業所の内、今号の特集では、利用者の皆さん一人ひとりのニーズに応じてきめ細やかな就労支援を提供しているワークセンターやまと(多機能：就労移行支援・就労継続支援B型・就労定着支援)での取り組みを通して、法人の就労支援活動についてご紹介します。

① 施設内作業

基礎体力の向上、個々の作業性の把握と向上を目的に企業の職場環境に近いかたちで支援を行います。月～金曜日まで作業を中心に行い、作業に必要なスキルを実体験で身に付けていきます。また、ワークセンターやまとは10社から作業を受託しており、様々な作業種を経験する事が出来る為、より細かな作業アセスメントをとる事が出来ます。

② 施設外就労

実際に企業で働くための準備性を高める支援として、施設外就労は非常に有効です。就労を実現する為には作業性だけではなく、様々な社会性を身に付ける事も大切になります。この企業内での作業体験はより実践的なものですが、担当職員が常駐する環境で作業を行う事が出来ます。

ワークセンターやまとは現在3企業で施設外就労を行っていますが、その内の一社は、約20年前からの関わりがある企業で、毎日ワークセンターやまとの1/3の利用者が作業に就いており、雇用に結びついた方々が7名います。施設外就労は施設側、企業側双方にメリットがあります。

施設(利用者)

- ・実践的な職業訓練の確保
- ・能力の引き出し
- ・就労意欲の向上
- ・高工賃の実現

企業

- ・作業効率のアップ
- ・経費の削減
- ・企業内の障害者雇用への理解向上
- ・雇用の確保

③ 求職活動～就労

施設内外の作業を通して就労の準備性が整ってきた方から順次就労活動を行います。ワークセンターやまとは毎年5～6名が就労していき、就労までの平均利用年数は就労移行

(中面へ続く)

(表面からのつづき)

支援事業を利用の方の場合1年5ヶ月、就労継続支援B型事業利用の方は6年4ヶ月になっています。就労継続支援B型事業は、就労移行支援事業の利用を経てきた方が殆どの為、個々のペースに合わせた就労までの支援を行う事が大切になります。また、就労先の作業環境のマッチングがとても重要になる為、その人に合った職場開拓が必要となります。

すずらの会では法人設立当初から、就労活動と職場定着に力を注いでおり、企業との直接の関わりを大切にしてきました。多くの企業とこれまでの関わりがあったからこそ、新たな職場開拓が進むこともあり、ワークセンターやまとも就労継続支援B型事業からの就労先の8割は法人との関わりがある企業になっています。また、すずらの会では障害者雇用を達成する必要がある企業の作業組み立てを、公共職業安定所等と連携して支援する等の取り組みも行ってきました。就労活動は様々なものがありますが、行政が開催する面接会等も就労に結び付く機会のひとつとなっています。



(ワークセンターやまと作業の様子)

企業の担当者と直接話ができる 貴重な就労活動の場

今年の9月に相模原市総合体育館で県央合同面接会が開催されました。80社前後の企業が参加し、企業の参加目的は、雇用率未達成のための人材確保、特例子会社の定期採用、企業独自に掲げる雇用促進など様々あり、幅広い業種の企業が参加します。企業との面談時間は当日の応募状況で大きく左右されますが、平均10分程度になり、短い時間でどのように自分をアピールし「働きたい」という熱意を伝えられるかがポイントです。面接会の参加者は、事前に冊子になった沢山の求人票を見ながら受ける企業を検討します。自分に合った企業を検討していくのはとても大変なことですが、家族と一緒に検討したり、職員に助言をもらったりして面接を受ける企業を決め、情報収集を行い、履歴書の作成、証明写真の撮影、面接の練習などの準備を職員と一緒にを行います。

面接の練習は、実際の質問を予想し、どのように答えるのか事前に準備し、面接形式の練習を行います。面接会当日は職員が同席し、複雑な質問内容の時などご本人が安心して受け答えが出来るように質問内容を整理し助言を行います。また、支援者の視点でのご本人のアピールポイントを伝えることができるので、自分では伝えきれない魅力や強みを企業側に具体的なイメージとして持って頂く事ができます。

合同面接会へ参加された方の声

ワークセンターやまと(20代女性)

- Q. 何回目の参加でしたか？
A. 2~3回目だと思います。
- Q. 参加してどんな気持ちでしたか？
A. 就労したいので、何回でも参加したいと思っています。面接は何度受けても緊張してしまいます。
- Q. 企業選びでは、どんなところをポイントにしましたか？
A. 作業内容が自分に合うか、土日休みであるかどうか、自宅からの通いやすさをポイントにしました。
- Q. 事前にどんな準備をしましたか？
A. 事前に、家族と一緒に会社を選んでいました。その中で、意見が合わないことなどもあります。
- Q. 施設外就労の経験はありますか？
A. 現在、施設外就労のメンバーです。施設外就労の経験は役に立ったと思います。

大和市障害者自立支援センター(40代男性)

- Q. 参加回数について教えてください。
A. 初めてです。
- Q. 準備してよかったことはありますか？
A. 面接で聞かれる質問(病名、服薬の状態、志望動機、質問、アピールしたいところ)の回答を準備しました。センターで実施している就労プログラムの面接講座で配布されたプリントを活用しました。
- Q. 施設外就労の経験が活かされたと感じる部分はありますか？
A. センターの施設外就労では、高齢者施設で洗濯やシーツ交換、清掃を行いました。施設外就労の経験を履歴書に書くことが出来てアピールポイントにもなり、面接でもその経験を話すことができました。
- Q. 気持ちはどうでしたか？緊張はしましたか？
A. 緊張しました。面接時間は8分と短かったですが、質問にしっかり答えようという意識で行うことができました。面接練習はしましたが、センターで実施している就労プログラムに参加するとしないとでは大分違います。就労プログラムで誤った回答をした際にしっかり言い直すことが良いことを学び、実際の面接の場面で言うことが出来ました。プログラムでやらなければ言えなかったと思います。
- Q. 企業を選ぶ際はどこに重点を置きましたか？
A. 仕事の内容、週休二日制、賞与はあるか、勤務時間など。通勤時間を考えて距離は近くを選びました。
- Q. 合同面接会参加にあたっての流れを教えてください。
A. ハローワークで求職登録した上で合同面接会の事前登録を行いました。合同面接会に事前登録したことで事前に参加企業の情報が掲載された冊子を受け取れた為、希望する企業へのエントリー用紙も事前に書いて持参し、整理券をすぐ取ることが出来ました。順番が早いと顔を覚えてもらい印象に残りやすいと考え、アピールポイントになると思い、事前登録を行いました。
- Q. また機会があれば参加したいですか？
A. また参加したいです。
- Q. 最後に感想をお願いします。
A. 就労に向けて自信がなかった部分もありましたが、面接会を経験したことで自信になりました。



大和市障害者自立支援センター(30代男性)

- Q. 参加回数について教えてください。
A. 1回目です。以前に参加する予定でしたが、事情により見学のみとなりました。
- Q. 準備してよかったことはありますか？
A. 経歴等の質問を予想して受け答えを考えたり、職員と面接練習を行ったりしました。それを行ったことで余裕とやる気、心構えが生まれたため、やっておいたほうが良いと感じました。事前に当日着ていくスーツを着用して、サイズが合うか確認をしました。
- Q. 当日の様子を教えてください。
A. 当日は、とても緊張していました。始まる前は、職員がいたことで緊張しませんでした。面接を受ける企業のブース前に椅子があり、座っていたのですが、順番が近付くにつれ緊張が高まっていきました。会場は、人が多く賑やかでした。
- Q. 最後に感想をお願いします。
A. 人が多くて緊張したけど、普段、面接の機会がなかったので人が多いところで経験できて良かったです。



こんな声もありました。

ワークショップ・フレンド利用2年目(20代女性)

- A. 参加は2回目です。緊張しました。自分にあった仕事、自宅に近いところを職員と相談しながら選びました。面接の準備・練習をしていたので、施設外就労の経験(病院内清掃)で仕事の詳しい内容を面接官に伝えることができました。

ワークショップ・フレンド利用2年目(20代男性)

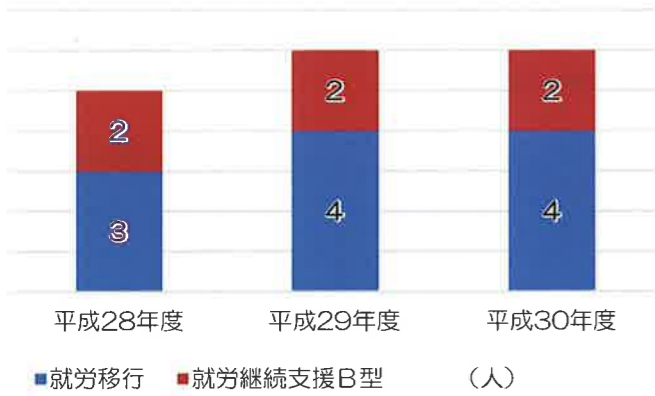
- A. 初めての参加でかなり緊張しました。仕事内容を中心に、家族と相談しながら選びました。履歴書の記入、面接の準備・練習に加え、服装などの身だしなみを事前に準備しました。面接の練習は自宅でも一人で行いました。2社受けた内の1社が、施設外就労での経験を活かせるような内容だったので、面接官と話が弾みました。

ワークセンターやまと(19才男性)

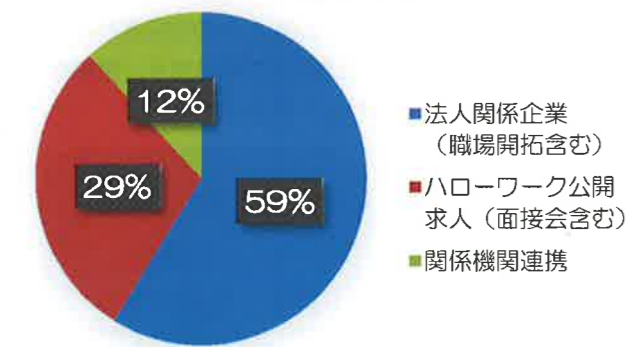
- A. はじめての参加です。緊張しました。企業選びでは、給与、休み、勤務時間、業務内容を見て選びました。写真や着ていく服の準備もしました。施設外就労の経験は役に立ったと思います。

(編集：広報委員会)

ワークセンターやまと就労者数推移



就労経路



※就労者の9割が施設外就労の作業経験を経て就労しています。

※法人全体では毎年、平均55名が就労しています。